

鳥海ダムだより



2002.11
第2号

国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所



いのちの水

鳥海ダム建設促進期成同盟会長

本荘市長 柳田 弘

日常生活において、普段当たり前のようのどを潤してくれる水。最近では、ご家庭でも、ミネラルウォーターを冷蔵庫に常備している方が増えたのではないだろうか。ちょっと前までは、若者たちの流行なのかと思っていたが、最近では、公式会議やフォーラムなどの席上にも、ミネラルウォーターのペットボトルがこれまた当たり前のよう、その存在感を示している。なかなかおいしいとは思いますが、やはり、小さい頃飲んだ、ふるさとの冷たい水が忘れられない。

海外に出かけると改めて痛感させられるのが、水のありがたさである。とりわけ、硬水が多いヨーロッパでは、水に含まれる石灰岩の成分を溶かすために、炭酸入りのペットボトルが多く販売されている。味のないサイダー水といったところか。いつでもどこでも飲むことができるイメージの日本も、その実際はやりくりが非常に厳しいのである。季節変動に大きく左右され、狭く急流な河川が多い日本では、毎年のように渇水、洪水を繰り返す。そのため、ダム等に水を貯めることで水量を調整し、安全で安心な暮らしを実現している。世界には、大小を問わず、約36,000のダムが存在する。エジプトには、紀元前2750年頃につくられた世界最古のダムがあるという。すべてが地域住民の生命

を守る水瓶である。

昨今発せられているダム論議は、これまでの社会資本整備のあり方を論点として、実は水資源の乏しい日本の国土において、いかにして地域住民の生命と財産を守り、住民に対して「いのちの水」をいかにして持続的に供給するのか、という点が最も重要な課題ではないかと考える。

ここ本荘由利地域は、秀峰鳥海山の清水に恵まれ、ふるさとの母なる川、子吉川が豊富な水量を潤沢にして供給してくれている。長い年月を経てつくられた自然の宝庫もたくさんある。鳥海山・獅子ヶ鼻湿原では、発達した溶岩流からなる崖、豊富な湧き水、四方をブナ林で囲まれた湿原に鳥海マリモといわれる、鮮やかな緑のコケ群が輝いている。正に自然の芸術品である。自然との共生は、困難を伴うことが多いかもしれないが、人間が営む経済社会活動においても、できる限り自然環境に配慮した取り組みが肝要になるだろう。

今日も当たり前のよう、おいしい水を飲むことができることに改めて感謝しつつ、地域の「いのちの水」を生み出してくれるであろう、鳥海ダムの日も早い槌音を心待ちにしている。

平常時と台風時の子吉川

7月16日の台風7号は記憶に新しいところですが、その台風時と平常時を見比べてみました。(鳥海ダム調査事務所のホームページから)

本荘第一病院裏側の河川公園「せせらぎパーク」



平常時



散策路も橋も水の中となりました

二十六木(とどろき)橋から上流を見る



平常時



川幅が写真に収まりきれないほどです

由利町鮎川近くの国道108号



平常時



冠水のため通行止めとなりました

鳥海山奉納 鳥海獅子まつり (第29回鳥海町獅子舞番楽競演会)

8月26日、鳥海町健康広場特設ステージにおいて、鳥海獅子まつりが開催されました。

この獅子まつりは、地域活性化の一助として、鳥海町民にとどまらず、広く芸能愛好者、研究者の方々にも鑑賞していただくとともに、後世のために記録することを目的として開催されています。

今年は9団体による19演目の競演となりました。その一部を紹介します。



下百宅番楽 (左：袈い獅子、右：若子)



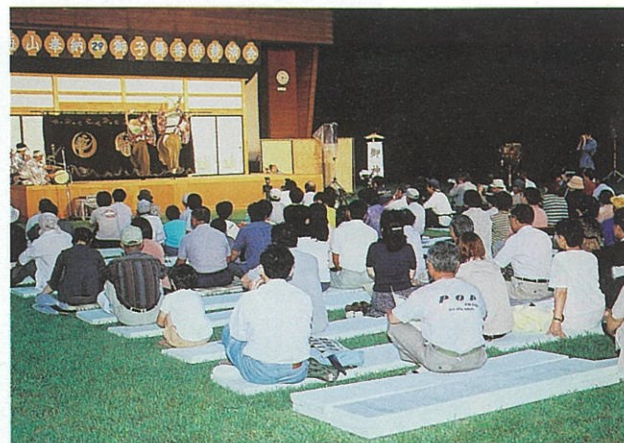
貝沢神楽獅子による獅子舞



平根番楽による曾我兄弟



篝火に点火する当所遠藤所長



会場風景

ウォーキングスタディイン鳥海

9月25日、本荘市立石沢小学校6年生23名と鳥海町立川内小学校6年生30名を迎え、子吉川上・下流の小学生の交流と鳥海ダム予定地周辺の自然観察を目的にウォーキングスタディイン鳥海が実施されました。

講師に元本荘市立北中学校長 木谷豊四氏を招き、法体の滝から玉田溪谷散策路を通り洞合（どあい）橋までの自然観察を行い、法体の滝園地に戻って昼食を取りました。午後からは当所遠藤所長による鳥海ダムの模型を使ったダムの説明、続いて木谷先生による鳥海山の噴火模型実験を行い、その後は班別に分かれ、園地内で散策クイズを行いました。最後に参加者全員で記念撮影をして閉会となりました。



開会式



講師の木谷先生



木谷先生の指導による自然観察



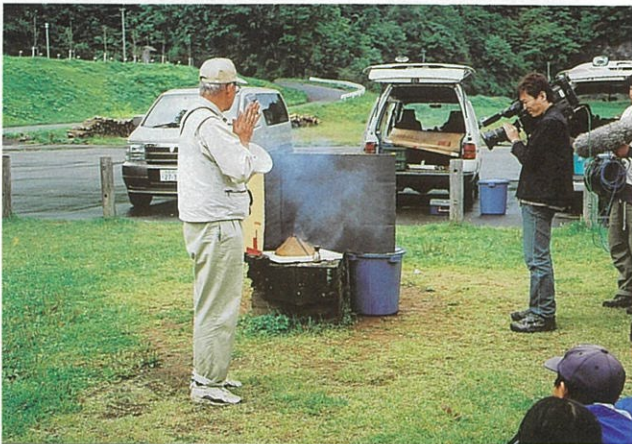
自然観察中



自然観察中



遠藤所長による鳥海ダム完成予想模型を使った説明



木谷先生による鳥海山噴火模型実験



井島君（中央）と佐藤さん（右）

閉会式では、参加者を代表して石沢小学校の井島隆浩君と川内小学校の佐藤彩華さんから、自然観察の感想や、講師と務めて下さった木谷先生や引率の先生、準備にあたったスタッフに対しお礼の言葉がありました。



法体の滝をバックに全員で記念撮影

子吉川いかだ下り大会開催

→ 昨年は「子吉川フェア」と同時開催でしたが、今年は7月28日に単独で大会が行われました。大会の様様を紹介します。



第9回子吉川写真コンテスト作品募集

子吉川写真コンテストは、子吉川を被写体としてそこに映し出される自然の営みを通して、川に対する関心、理解を深め、河川愛護思想の高揚を図ることを目的として、平成6年度から実施しており、今年で9回目となります。応募方法等詳細は、鳥海ダム調査事務所または下記の主催・後援・協賛各社にお問い合わせ下さい。

応募締切：平成14年11月29日（金）

主催：国土交通省 東北地方整備局 秋田工事事務所、鳥海ダム調査事務所
秋田県由利建設事務所

後援：本荘市、由利町、東由利町、大内町、矢島町、鳥海町
秋田魁新報社（株）、（社）東北建設協会、（財）河川情報センター

協賛：富士フィルム（株）、フジカラー東北（株）、秋田キャノンビーエム（株）

第9回

子吉川 写真コンテスト



見つけて
感じて
発見して

作品募集中

- テーマ / 子吉川を題材にした、四季折々の自然と、そこに生きる人々や動植物の営み、●川と自然 ●川とくらし●川と人 など
- サイズ / カラー・白黒プリント・サービスサイズ以上四つ切以内。（組写真は不可です）
- 応募条件 / 年齢制限はありません。子吉川水系（子吉川・芋川・石沢川など）で撮影した未発表の自作品に限ります。応募用紙に記入のうえ、ネガを添付してお送りください。また、入賞作品の著作権は、主催者側に帰属します。選考もれの応募作品は審査終了後応募者に返却いたします。
- 期間 / 応募開始 平成14年8月9日（金）
応募締切 平成14年11月29日（金）
- 審査 / 主催者および後援・協賛団体代表
- 賞格
 - 最優秀賞………1点（賞状・盾・副賞）
 - 優秀賞………3点（賞状・盾・副賞）
 - 入選………7点（賞状・盾・副賞）
 - ヤング賞………2点（賞状・盾・副賞）
（18歳以下対象）
 - レディース賞………2点（賞状・盾・副賞）
 - 佳作………10点（賞状・盾・副賞）

今年台風6,7号及び過去における洪水災害写真も募集しています。「洪水の怖さ」に対する意識の啓蒙に活用させていただきます。（特別賞を用意しています）

■発表 / 応募締切日より約1ヶ月ほどで、入賞者本人に通知します。（ネガの提出がない場合は失格となります。）

■主催 / 国土交通省 東北地方整備局秋田工事事務所・国土交通省 東北地方整備局鳥海ダム調査事務所・秋田県由利建設事務所
■後援 / 本荘市・由利町・東由利町・大内町・矢島町・鳥海町・秋田魁新報社（株）・（社）東北建設協会・（財）河川情報センター
■協賛 / 富士写真フィルム（株）・フジカラー東北（株）・秋田キャノンビーエム（株）

鳥海ダム事故防止委員会安全パトロール実施



9月19日、鳥海ダム事故防止委員会安全パトロールが実施されました。この鳥海ダム事故防止委員会は、当所管内の工事等の施行に伴う事故を未然に防止し、工事の円滑な推進に寄与することを目的に設置されているものです。当所所長を会長に当所職員及び当所が発注する業務等の請負業者の代表者等を委員として構成され、8月2日には既に総会を行っています。

安全パトロール当日は、鳥海ダム地質調査（その2）の現場をパトロールした後、鳥海町の鳥海荘にて検討会を行いました。検討会では、安全衛生、整理整頓、火災防止等の事項について指導を行いました。



編集後記

今号では、鳥海ダム建設促進期成同盟会長の柳田弘本荘市長に寄稿していただきました。ありがとうございました。

今回は、鳥海獅子まつり、ウォーキングスタディイン鳥海等を中心に紹介しました。

当所のホームページから台風時と平常時の比較を掲載しましたが、他にも数カ所の状況を掲載しています。当所のホームページでは当所が参加したイベント等について随時更新して紹介しています。ぜひ一度、下記アドレスにアクセスしてみてください。ダムだより共々よろしくお願いします。

担当 補償調整課

編集・発行

〒015-0001 秋田県本荘市出戸町字給人町13-4
国土交通省東北地方整備局鳥海ダム調査事務所 TEL 0184-23-5120
FAX 0184-23-5451
ホームページアドレス <http://www.thr.mlit.go.jp/chokai/>
e-mailアドレス chokai@thr.mlit.go.jp